

# むぎ

22号

## 国際児童年母親大会

国際児童年を母親の愛と行動でみのりあるものに

- 第22回えひめ母親大会— ..... 栗原美奈子 1  
えひめ母親大会第9分科会報告 ..... 谷本純子 4  
国際児童年第25回日本母親大会に参加して ..... 池田節 5

## 全国各地女性史サークル活動紹介

- 『北見の女』第4号を通読して ..... 阪本敏子 6  
北見女性史研究会のみなさんのお話から ..... 谷本純子 7  
千里市民講座日本近代史ゼミ編集『私たちの戦中・戦後』を読んで ..... 山本紀 8  
熊本・家族史研究会『女性史研究』第8集を読んで ..... かわもとけんじ 9  
全国各地女性史サークルからのお便り ..... 結城千恵美 10  
女性史サークルの歩みⅢ ..... 川又美子 12  
保守王国と買収選挙 — 県下の衆議院議員選挙をふりかえる ..... 影山澄江 17  
随想 不惑の歳 ..... 今井由紀子 21  
愛媛女性史年表 — 愛媛新聞の記事より — ..... 山本紀・かわもとけんじ・谷本純子 23  
あとがき ..... 37

1980.5

女性史サークル



いつも新しい婦人服

株式会社

ア カ シ ヤ

松山市大街道 2 丁目大街道店 ☎41-7720  
〃 一番町 3 丁目アヴァ店 ☎33-6251

美しい毛髪づくりの店

おしやれ美容室

松山市花園通電車通  
☎45-5305・45-9016

タイプ印刷・オフセット印刷  
欧文印刷・各種一般印刷

有限会社

二葉印刷所

松山市本町 3 丁目 2 の 1 5  
電話 31-3084

えひめ<sup>コ</sup>COM<sup>△</sup> 建築事務所

所 長  
一級建築士

玉井 洪 矣

〒790 松山市三番町 8 丁目 354 の 5 ☎(0899)32-0058  
ホワイトコーポ 7 階

# 国際児童年を母親の愛と行動でみのりあるものに

## — 第二二回 えひめ母親大会 —

栗原美奈子

今年「国際児童年」で、母親大会が追求してきた子どもの問題が世界的にみなおされ、運動がまきおこされる中で開かれました。

愛媛でも、いま私たちのまわりでは、子どもの自殺、非行、教育、文化の荒廃など、子どもの心とからだ、今ほど深く病んだことがあつたでしょうか。すべての子どもに、ゆきとどいた教育、文化、健康、福祉、平和、安全な未来を、国際児童年を母親の愛と行動でみのらせましょう。とのよびかけを出し、第二二回えひめ母親大会へのとりくみははじめられました。

大会成功をめざして、母親連絡会として、愛媛のお母さんたちが手を取りあつて児童年の年にふさわしく子どもたちに何かをのこす運動をおこそうと、子ども図書館、子ども専門病院、運動公園、えひめの子ども全体にゆきわたるものとして三歳までの幼児に医療費の無料化、へき地の子どもたちにも文化をいうことで移動演劇等々、いろいろと課題が出されましたが十分に討議し、ねりあげて県内運動として提起する事はできませんでした。

しかし、大会では児童年の特徴を出そうと、分科会に子どもの立

場での発言の場をつくろうと 中学校・高等学校のもんだいをパネルディスカッションとし、中・高校生と教師・母親が討議を行なうという企画をたてました。

この分科会は、はじめ思ったほど簡単にはいかず、第一の壁は発言する生徒を確保するのに大変で、あらためて愛媛の教育のきびしさを思いしらされました。しかし成功のために特別に任務分担をきめ、何回も討議を重ねて当日をむかえました。その結果、一〇〇名余りの参加者で、子どもたちの考え方、親や教師に対する要望などがうきばりになり好評をうる分科会となりました。

分科会は「子どもと教育のもんだい」「くらしと権利のもんだい」「平和と母親運動」の四つの柱にもとづいて九つの分科会をもち午前中討論を行い、決議や、申合せ事項が出されました。

午後の全体会は、「日本の子ども現状とおとなの役割」と題して記念講演を行ない、分科会の決議を確認し、世界の子どもたちに援助を、とカンパの訴えを出し、大会宣言を採択して終わりました。

参加者は約七五〇名で、地域的にも川之江から、宇和島までの参加が

ありました。

大会後、決議や申し合せ事項を、県、市、に對する要望書としてまとめ、申入れを行いました。

又、児童年の記念行事の一つとして十一月二六日、愛媛大学医学部の金澤彰の「こころも身体も健康な子どもにするために」と題する講演会を開きました。

資料

一九七九年十月二四日

## 国際児童年

### 第二二回えひめ母親大会

実行委員長 藤 井 アヤメ

愛媛県知事

白石 春樹 殿

### 要 望 書

去る八月十九日、松山市民会館で開催された国際児童年第二二回えひめ母親大会では、「生命を生みだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」の基本スローガンをもとに子どもの問題、くらしの問題、平和の問題などについて全県から婦人が集まり、熱心に話し合いが行なわれました。

特に、今年、国際児童年でもありますので、とりわけ子どもに關する話し合いが深まりました。

その話しあいの中で、行政への要望が別記の通り出されましたので、御検討をいただき、後日御検討の結果などにつきまして、懇談の場を設けていただきますようお願いをよろしくおねがいいたします。

尚、この要望書の内容は、国や市町村にかかわるものも含まれておりますので国への働きかけと市町村の行政指導をよろしくおねがい致します。

### 要 望 事 項

#### 一、子どもに關する問題

##### 1 乳幼児に關して

- (1) 乳幼児の検診を充実し徹底して下さい。
- (2) 子どもが十分に遊べる遊び場を各地につくり、今ある保育所などを解放して下さい。

##### 2 小学校に關して

- (1) 学級定員四〇名を早期に実現するよう国へ働きかけ、どの子どもにもゆきとどいた教育環境を整備して下さい。
- (2) 落ちこぼれを出さないために、教師にゆとりをもたせる対策として、枠外定員の増加、授業時間の軽減などについて配慮して下さい。
- (3) 子どもたちがよろこぶような食堂給食のモデル校をつくらして下さい。

3 高等学校に関して

- (1) 普通科高校（公立）を増設して受験地獄を解消して下さい。
- (2) 私立高校への大幅助成と授業料補助で、公立高校との経済的格差をなくして下さい。

4 障害児に関して

- (1) 障害の早期発見、治療、保育、教育の実施とその制度化を強力にすすめて下さい。
- (2) 障害幼児の療育、保育のための施設をつくって下さい。  
保育園や幼稚園への入園を保障して下さい。
- (3) 各養護学校に幼稚部を設置して下さい。その充実をはかって下さい。
- (4) 養護学校義務制完全実施をめざし、通学の保障、教員増、施設改善をはかり豊かな教育内容を保障して下さい。
- (5) 障害児の後期中等教育と進路の保障をして下さい。

二、くらしに関する問題

1 福祉に関して

- (1) 障害児・者をもつ家族の生活や労働が保障される障害児・者の教育条件などの充実をはかって下さい。
- (2) 障害者の総合的施策の実施とその制度化をはかって下さい。
- (3) すべての障害児・者の生活と働く権利を保障するための、共同作業場をはじめ福祉工場の設置などを具体化して下さい。
- (4) 老後を安心して暮らせる施設を、量、質、ともによりよいも

のをつくって下さい。

- (5) 社会福祉施設で働く人々の待遇改善をはかって下さい。
- (6) 本格的な高齢者社会を迎えるにあたって老齢年金を生活できる額に引きあげて下さい。

(7) 特に遺族年金の改善に力をいれて下さい。

(8) 老人医療の無料化を完全なものにして下さい。（保険料などの引き下げ）

(9) 高齢者に適した仕事、就労事業をおこして下さい。

(10) 社会保障各制度の請求制度を改め、通知制度にきりかえて下さい。

(11) 病療入院の際の差額ベット、附添料等保険外負担の解消をはかって下さい。そのために完全な基準看護の実施をして下さい。

2 働く婦人に関して

(1) 働く婦人の母性保護の充実、男女同一賃金、同一労働など働く婦人の権利を守るために労働基準法を改正して下さい。

男女平等の名のもとに婦人に関する保護を妊娠出産に限定しよ  
うとする労基法改悪には反対します。

(2) 行政各機関に婦人の新規採用を積極的に進めて下さい。

(3) 失業対策事業を継続し、その確立を要望します。

3 一般消費税の創設反対を国へ要望して下さい。

4 松枯れの真の原因究明、並びに空中散布薬剤の毒性が身体（特に子ども）の将来に及ぼす影響の調査をして下さい。

・これらが解明されるまで松枯れ対策として薬剤の空中散布計画

を延期して下さい。

5 有害な洗剤の製造、販売を中止し、安全な洗剤に切りかえて下さい。

6 排気ガスの規正を強めて下さい。

7 伊方の原子力発電所の運転は安全性が確認され住民が納得いくまで中止して下さい。

## 第二二回えひめ母親大会第九分科会(平和・母親運動)報告

谷 本 純 子

私は、この分科会で遠藤素子(八幡浜母連)さんとともに司会を担当したので、報告したい。

はじめに自己紹介を兼ね、婦人運動、地域運動をやりながら、自分たちがかかえている問題、直面している困難、又、やりたい事を、一人一人が話すことでスタートした。

内子町から参加した人は、職場(内子町役場)で青年部が中心になって、実行委員会をつくり、今日の大会に参加したことを述べた。

宇和町から参加した人は、「地域で、ぜひ、母親大会をやりたい。どうやってやればいいのか知りたい」、その他、「職場でなにかにつけ世代の違いを感じているが、みんなの意見を聞きたい」、「平和運動を身につけたい」、「いろいろな事を知りたい」といった話が出た。

松山市で、松枯れ防除薬剤の空中散布に反対する運動をされている人からは、「政治を抜きに考えられない」といった鋭い指摘もあった。

次に、えひめ母親大会への各地域でのとりくみをどうすすめてき

たのか、八幡浜・新居浜・西条の経験聞いた。

八幡浜からは、実行委員会準備会を開き、婦人会・農協など各種の団体に呼びかけて、今日の母親大会に臨んだ旨の報告があり、「今は、特に若い人を集めるのが非常に困難な時期だ」との話があった。

新居浜からは、「実行委員会をつくり今日の大会に参加しているが、だれでも参加でき、一人でも参加できるようにしたい」との話があった。又、「障害児保育の講演会を計画している」と積極的な報告もあった。

西条からは、「教組で実行委員会をつくり今日の大会に参加しているが、地域とのつながりが抜けていて、運動の広がりがない」と、直面している悩みをまじえた報告があった。

最後に、助言者の篠崎勝(愛大)先生から、「各地域でそれぞれ運動が展開しているが、他の団体との連帯が必要であり、一緒に運動を展開し、それぞれが、それぞれの日常の運動をしていくことが

大切だ」と討論のまとめがあった。

次回の母親大会を少しでも前進した実りあるものになりたい、と私

は感じた。

## 国際児童年

### 第二五回日本母親大会に参加して

池田 節

一九五五（昭和三〇）年、第一回日本母親大会への送り出しを愛媛で準備した者として、今年二五回、四半世紀に亘って母親運動がこんなにならばり強く発展するなど、当時は予想もつかないことでした。

二五年前に「核戦争から子どもを守ろう」と世界母親大会が開かれ、その意義をしっかりと踏まえ、根づかせた国は日本だけという。

この連帯の広場で、今年も一万六千人が東京へ集まりました。

二五年の歴史をふみしめ、とりわけ国際児童年との重なりの中で、母親の愛と行動で子どものしあわせをみのあるものにしよとの企画のもとに開かれる今年の大会に、いつになく参加の意欲が湧きました。

三四分科会、分散会を含めば八〇数会場を準備する大会役員の方々のご苦労がよくわかり、しみじみと胸のあつくなる思いがしました。各県で分科会の司会、記録、会場連絡係を分担することになっていました。愛媛県は、「子どもとマスコミ」を担当することになっており、参加者二〇名のうち五名がその任につきましました。私も司会

をうけもち、大いに勉強させていただきました。司会者のもう一人は新婦人の森美代子さん（二人の子どものお母さん）で、記録は保母さんの田福佳子さん、会場連絡係は自労の栗野ヤヨイさん、助言者は石子順先生。

さすが日常不断に母親運動にたづさわっている方々。その息もびったり、気持ちよくその任を果たすことができました。

分科会の参加者は六〇名余、北海道から鹿児島まで、一人もれなく発言、お母さん、学校・幼稚園・保育園の先生、演劇関係者、マスコミ関係者など、日頃の実践を通じて

早朝の子ども番組や会員のコマースシャルの追放。良い番組には激励や再放送を。悪い番組には抗議を。マスコミ関係者との話し合いを。テレビ・劇、マンガ・本などは親子いっしょに考え、よいものを選び。親子読者などの運動を広げよう。丁寧で時間をかけた芸術的教育的配慮のあるよい番組をつくらせよう……などたくさん申し合

わせが出されました。参加者は同じ思いで子どものしあわせめざして明日からのそれぞれの地域・職場での活動を約して散会しました。

八回大会とその前後に一度参加した私は、三度目のこの大会に参加して、愛媛もそうであるように、三〇歳代・四〇歳代が圧倒的に多く、子育て中のお母さん達や、教育・保育にたづさわる専門職の方々の真剣な討論に胸打たれる思いと、あたり前の女たちがこのように社会とのかかわり、政治とのかかわりに思いを寄せ、子ども

## 『北見の女』第四号を通読して

阪 本 敏 子

らや、婦人の幸せをひたすらに語りあい、連帯し、世直しの力を日本列島の隅々に発揮している底力に、あらためて深い感動を覚えまたした。

「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」

このスローガンの重みをいつにもまして反すうしている昨今です。

「特集1―満州に生きた日本人、特集2―北海道戦後開拓の人々」共に大変な力作だ。が中に、女性がほとんど登場しないレポートもあったのが残念だった。かなりの時間と労力をかけ資料収集もむづかしかつたのでは……。

南国生まれの私には北海道の寒さが想像も出来ないし、農業にも無縁な私には開拓者の生活がいかに厳しいものであるかということも知らないが、これを読んで少し農民の苦労がわかったような気がした。

菅原さんの「婦人は大きく団結しなければならない」、これなど女

性の生き方の一断面をとらえ、よくまとまっている。

「中国に生きた二人の女性」、中国での女性の地位は日本と違ってうんと高く、男女平等が徹底していらしい。うらやましい限りである。吉田さんの中国での生活を追跡レポートしてほしい。

この北見女性史研究会会員の中には男性もいて、原稿も書いています。とても歓迎すべき事だ。出来れば末尾に職業、年令を入れてほしい。



# 北見女性史研究会のみなさんのお話から

谷 本 純 子

サークルのメンバー篠崎勝が、一九七九（昭和五四）年一〇月一日

北海道北見市を訪れ、オホーツク民衆史講座・北見女性史研究会の方々と話し合いました。この時のテープをもとに、小池喜孝さん・大野勝美さん・木村峰行さん・黒田和子さんのお話の要旨を紹介いたします。

小池喜孝さん

北見女性史研究会は、一九七三（昭和四八）年八月、松山で開かれた歴史教育者協議会第二五回全国大会に参加した時、近代史文庫をたずね、女性史サークルの活動をしました。北見市に帰って、早速この年一〇月に女性史入門講座をしたのが、そのはじまりでした。

大野勝美さん

昭和四八年に北見女性史入門講座がスタートし、のち北見女性史研究会ができました。

明治三〇―三二年以後、屯田兵によって北見の町の基礎がつくられました。女性史研究会で、その当時のことをしているおばあちゃんに聞きとり調査をしました。教科書で習っている歴史とは

大分違っていました。

北見は、世界一のハッカ栽培地で、世界産額の八割を占めていた時期もありました（現在はほとんど栽培されていない）。

ハッカ栽培が盛んだったころ男たちが集まり、それをなぐさめる女たちが集められ、公娼制がつけられました。廃娼運動に立ちあがったのが、伝道布教活動をしていたヒラソン夫妻でした。屯田兵の妻をたずねて聞きとりもしました。彼女たちは、男まさりの仕事に従事し、六―七人の子どもを育てました。

機関誌『北見の女』は四号まででています。

現在、会員が少ないのが悩みで、主婦、OL、学生たちが参加しています。

木村峰行さん

農業普及員をしています。

農協は農民の味方でないと感じています。仕事をする中で、地域の発展のためか、地区の一部のもののためかと考えさせられます。

女性史研究会で反省しながら学んでいます。社会が少しでもよ

くなる方向でガンバって闘っていきたい。

里田和子さん

農業普及員をしています。

戦後開拓の一番苦しい時期を経験してきました。開拓業務打ちきりとなり、農協に移行しました。その時、各農家には、多額の借金があり、どうすればよいか、その対策に走りまわりました。

## 千里市民講座日本近代史ゼミ編集 『私たちの戦中・戦後』を読んで

山 本 紀

一九七四年千里山生活共同組合の中から、市民講座が生まれ、一九七八年には、「日本近代史ゼミ」が開講された。その中で、参加者の語った「自分史」を、現代日本の民衆の記録として残す重要性に気づかれた小山仁示先生たちによって、まとめられたのが本書である。発行が八月一日となっているのも、一つの意味をこめてのことと思われる。

いやな思い出は忘れ去りたいという人間の気持ちをのりこえて綴られた一二名の方々の体験集は、ずっしりと読みごたえがあった。記憶の風化作用か、かなり淡々とした筆運びを感じさせられたが、激動する歴史にほんろうされた個人の生活の事実は、あまりに生々しく、時に胸が苦しくなる思いもさせられた。

た。農民の苦勞を知らなければと思い、いろいろ学びたい思いで、女性史研究会に入りました。今年の九月から研究会の代表者をしています。

附記 北見女性史研究会の長年の活動を話して下さった中から、その一部を摘記しました。

私自身、母から聞かされた苦勞話（配給、内職、買出しなど戦争末期から戦後の混乱期）のいくつかを思い出し、脱脂ミルクや、干しブドー、干しリンゴなどの給食も思い出したのである。「当時としては、ごく普通の体験が、歴史の証言となっている」ことを記録としてとどめられた意義は大きいと思う。実際、平和でなければ、庶民には夢も希望もあり得ない。「かまども七輪も知らない、豊かな日本に生きる、石油文明だけしか経験していない若者たちが、母や祖母たちの暗い時代のたくましい生き方から多くを学びとって、真に平和で、民主的で、人間の権利が尊重される社会をつくるために生かして頂きたい」という小山仁示先生の言葉のように、この本がより多くの若い人達の手に渡るように、また社会的不安があるとは

言え、一応の平和な世の中で、戦中を生き抜いた個々人が、今再び戦争への憎悪をかきたて、今後を生きるエネルギーにしていくために、この本が力になるよう願ってやまない。高度経済成長期に育ち

本書の最後に書かれた池田純子さんの「歴史を学ぶことは生き方を学ぶことである。……戦争を知らない世代の人に、自分の生き方を定めるための、一つの指標にしてもらいたい」という言葉に深く同感を覚えた。

## 熊本・家族史研究会 『女性史研究・第八集』 特集—高校日本史教科書の女たち—を読んで

かわもとけんじ

A4判、一九七九年六月発行、六四ページ、赤色の表紙、銀文字が浮き上がり見事なデザイン、領価五〇〇円、見るからに読書欲をそそられます。

トップに、女流歴史学者、三瓶孝子氏のありし日の写真と主要な著書編書のリスト、続いて追悼の一文があります。

冒頭の和田典子氏の「わたしの女性史研究」では、現行の学校教育には人間を歴史的存在として把握する教育が稀薄であることを憂えて、家庭科の修了論文として、女性史研究「祖母の生涯に学ぶ」を課してきたこと、その結果生徒たちは「星座を見るような歴史観ではなく、血の通った歴史的視点」を獲得したようだと言及されています。

地域に生き地域社会の構成員として地域の歴史創造に参加しているという観点にたつ私たちの強く共鳴するところです。

さて、本誌は現在高校で使用されている日本史教科書九種を中心に調べ、それらの中で取り上げられている歴史上の女性―ヒミコ、豊御食炊屋姫（推古天皇）から徳川和子（秀忠の娘・東福門院）、和宮まで二五人、明治維新後は次号で取り上げられるのですが、これにしても僅か二五人（この期間に男性は何人くらい出てくるのでしょうか、日本史II日本男性史ということになるでしょう）、この二五人を二二人の方々が分担執筆されています。その人物像を、彼女たちが生きた時代、条件を背景に浮び上がらせてあり、その間とところどころに執筆者の感想があって、それがキラリときらめきます。女性ならではの史眼と深い洞察、研究の結果でしょう。

例えば「卑弥呼以って死す、大いに冢かぶを作る、徑百余歩……」（魏志倭人伝の条）を「女たること、女シャーマンたることを尊敬した結果ではない、大きな家は共立者である諸国の男王たちの権力

のシンボルに過ぎない”(筆者ながわ・まさこ)といった具合です。

末尾に「家永教科書のなかの婚姻、家族」(犬道美子)「類別制親族名称体系の起源について(中)」(リブファース、訳卵野木盈二)

## 全国各地女性史サークルからのお便り

結 城 千 恵 美

〃むぎ〃二〇号にひきつづき一九七九年八月に発刊した二一号を、全国の女性史研究三二団体(末尾掲載)、個人五人に贈呈しました。今回も各地からお礼状、機関誌等が送られてきましたので紹介いたします。

一九七九年一月、広島大学の谷口絹枝さんより次のようなお便りと「『女人芸術』総目次・作者別索引」のコピーが届きました。

(上略)私は広島大学に学ぶものですが、卒業論文に『女人芸術』をとりあげ、研究しています。(中略)『女人芸術』の総目次・作者別索引を作ってみました。(中略)御希望があれば、お分けしていますので、お知らせ下さい。(中略)女の問題を考える時のお役に立てれば幸いです。(下略)

同月、お茶の水女子大学女性文化資料館より「ひき続きよろしく

「高群逸枝写真集」補遺があります。

この研究会の深くきびしい研究と会員の方々の生き方もうかがわれて強い感銘をうけました。

「お願いします」というお礼状と「文献・資料所蔵目録」No.2(一九七七年四月〜一九七八年三月)が送られてきました。

一月、松山の「てかがみ女性史研究会」より、機関誌『逢源』(創刊号)を寄贈していただきました。

東京都杉並区の「近代女性史研究会」山本千恵さんより、一九七九年一月、次のようなお礼状が届きました。

(上略)こまやかな会運営の報告、また会議での運営のすばらしさ…… 労苦のしのばれる年表のまとめなど、地域ならではの特色でもあり、うらやましいことです。女性史研究という地味な「斗い」にむけて、各地の女性たちが、遅々と、苦勞しながら歩みつけていることを確かめて、心を励まされています。(中略)会の運営ということにはむずかしさを感じています。

会報を(中略)送ります。(下略)

東京都小平市の「小川女性史研究会」虎谷キエさんから次のようなお礼状がきました。

(上略) 小川女性史もやっと来春からニュースを出すことになりました。(中略) 五年目です。「むぎ」の一〜二頁さいて、「全国女性史のひろば」として、投稿をのせて頂けませんか。(下略) 一九七九年一二月、「大阪女性史研究会」神谷伸子さんよりお礼状と「女性史研たより」No.24〜26が送られてきました。

(上略) 名古屋のつどいをなつかしく思い出しました。(中略) いよいよ九年目に入りましたので一〇年目には何か、と思っはいるのですが、年表戦前編も遅々としてすすみません。会員がちつともふえないのは何故だろうか(問いあわせはちよくちよくあるのですが)とか悩みがつきません。(中略) 来年こそは第二回のつどいが開かれるとよいのですが。(下略)

この研究会は、〃ほそぼそとでもとにかく続ける〃をモットーに月二回の例会を持ち、年四〜五回「女性史研たより」を発行しています。

熊本の「家族史研究会」から、一九七九年一二月、『女性史研究』(第九集―特集・母権の発見)を贈呈していただきました。

一九七九年一二月、「静岡女性史研究会」顧問の小和田哲男さんより、次のようなお礼状が送られてきました。

(上略) 各地の女性史研究諸団体の動きがうかがわれて、有益でした。また、愛媛女性史年表はすばらしいです。こうしたもの

がつみ重ねられて、本当の女性史になるのだと思います。

北海道の「北見女性史研究会」(代表黒田和子)から一九八〇年一月お礼状が届きました。

(上略) むぎ二一号をお送り下さいましてありがとうございます。(中略) 私達の会は、現在、中休みの状態ですが、暖かくなりましたら動き出すつもりです。(下略)

〃むぎ〃二一号を贈呈した団体

北海道女性史研究会、オホーツク女性史研究会、北見女性史研究会、道南の女たち研究会、東京歴史科学研究会婦人運動史部会、婦人問題懇話会女性史分科会、(早大)女性史研究会、(お茶の水)女性史研究会、静岡女性史研究会、愛知女性史研究会、(岐阜)現代女性史研究会、金沢女性史の会、女性総合研究会、大阪女性史研究会、兵庫県婦人運動史研究会、広島女性史研究会、香川女性史研究会、家族史研究会、女性史研究所、京都婦人のあゆみ研究会、婦人労働問題研究会、日本風俗史学会中部支部、(京都)婦人問題研究会、広島婦人問題研究会、千里生協市民講座、新潟女性史クラブ、(小平)小川女性史研究会、岡山女性史サークル、(松山)女を生きる会、(松山)石井女性史勉強会、(松山)てかがみ女性史勉強会、愛媛新聞社

# 女性史サークルの歩みⅢ

一九七九年一月～一二月

川 又 美 子

## 一、「むぎ」再刊と「愛媛女性史年表」の作成

一九七九年（昭和五四）年にはいって、サークルは一月八日から山本翠のききとりをはじめた。ついで一月一五日から久保仲子のききとりをはじめ、以後二月から三月にかけて兩名のききとりを実施した。

この間、一月二日に知事選挙が実施されたが、革新統一候補の擁立が不調に終り、共産党の元岡稔と自民党県連公認の白石春樹（現職）の対立となって白石春樹が当選、第三次白石県政がスタートした。

一月二七日にはサークルの新年会を開き、一〇名が参加して知事選挙などについて話し合った。

二月一〇日から一二日の三日間、「第一八回全国保育問題研究会」が松山市で開催され、全国各地から約一、三〇〇名の保育関係者が参加した。川本健二・栗原美奈子、池田せつ、川又美子らは、愛媛保問研の会員として早くから集会の準備活動にも参加し、集会当日もそれぞれの部署を担当して集会成功のために努力した。また初期の会員であった合田鈴子（新浜市在住）も愛媛保問研の役員として分科会報告や事務局を担当しており、女性史サークルを通じての

連帯感が現在の諸活動のなかにも生かされていることを語り合った。三月八日には、国際婦人デー愛媛中央集会在松山市伊予鉄福祉会館で開催され、約一五〇名の婦人が参加した。集会では各職場の実態報告が行なわれ、愛媛の労働婦人の現状が生々しく語られた。また、金沢彰（愛媛大学）が「現代の子ども」と題する講演をした。

三月末にはサークル機関誌「むぎ」二〇号を発行した。「むぎ」は一九五九年（昭和三四）年に創刊され、一九七一（昭和四六）年に一九号が発行されて以来休刊となっていたもので、七七（昭和五二）年一月に再刊の計画が立てられ、編集にとりかかっていたが、印刷・製本を手作りですすめていたため、作業が大幅におくれて、二年がかりででき上がった。二〇号には、篠崎勝・川本健二・宮本純子・田中綾子・影山澄江・阪本敏子・今井由紀子・二宮敏子・山本紀・川又美子らが寄稿している。なお清書・印刷・製本には、山口孝義・花井和司・田中綾子・谷本純子・結城千恵美・川又美子らが協力してあった。また、今回はじめて、全国の女性史研究会・サークル約三〇団体に寄贈した。これにたいし各研究会・サークルからの礼状や機関誌・出版物の寄贈が相次いだ。（「むぎ」二二号

に詳報)

久保仲子のききとりは三月二六日に、山本翠のききとりは五月四日に終了した。

久保仲子は、旧制女学校在学中勤労働員に参加し、広島で被爆、戦後労働組合の書記として働きながら県内の原水爆禁止運動・被爆者運動の先頭にたって活動し、さらにPTA役員としても長く活動してきた半生を語ってくれた。「自分の好きな道を進み、その中で運動ができたこと、これが長く活動ができたゆえんであると感謝している。人生『グットバイ』をするとき、私でなければできなかった仕事があれば、私の『生きてきた証明』となるでしょう」(「むぎ」二一号)と語っている。

山本翠は、朝鮮から伊予郡の山村へ引き揚げて、苦しい生活を送る中で明るくたくましく育ってきたおいたちを、安保闘争を経て民間同盟の活動家として情熱を燃やした青春を、労働組合運動、保育運動に体当りで活動している今を、笑いと涙を交えながら私たちに語ったが、「手きびしい質問にあえいだこともありました。おおかたしゃべりつくしたと思いがら、はて、きれいごとのら列ではなかったか、しゃべらなかつたことの中にほんとうの自分の姿があったのではなかつたかと、いささか気はずかしい思いもしています。」「もし生あらば、あとの三分の一をこれからどう生きるのかが私の課題です」(「むぎ」二一号)とききとりに応じた感想を述べている。

ついで正木ツヤ子(元教員・キリスト教婦人矯風会会員で売春問題にとりくんで来られた方)のききとりをはじめることとなり、五月二六日には松山市荏原の江南荘に正木ツヤ子を訪問して第一回のききとりを行なった。これには谷本純子・篠崎勝・阿部真佐子・松浦正子が参加した。

六月から七月にかけてのサークル例会では久保仲子・山本翠のききぎの整理や、今後のききとりの予定などを話し合った。

また、五月一日以来「むぎ」二一号の発行について、具体的な編集計画を立て、話し合ってきたが、「愛媛女性史年表」を作成して、今後「むぎ」に逐次掲載することをきめ、六月一八日の例会では、その作業計画について相談した。これはサークルが、一九六八(昭和四三)年に刊行した『戦後えひめ女性史年表』(一九四五年～一九五一年)のあとを受けて、まず一九七九(昭和五四)年四月以降の「愛媛新聞」の記事から県内の婦人に関係するものをすべて拾い、七項目(A生活、B家庭、C教育・文化・スポーツ、D労働E政治・行政・自治、F社会問題、G婦人団体・グループ・サークル)に分類し、年表原稿を作成する方法をとり、会員各自が分担して作業することとした。「むぎ」二二号は八月十七日発行された。

この号には、川又美子・工水戸富士子・久保仲子・山本翠・谷本純子・阿部真佐子・松浦正子・松本数子などが寄稿し、「愛媛女性史年表」一九七九(昭和五四)年四月～五月(川本健二・谷本純子

結城千恵美担当)を掲載した。

## 二、おめでとう「近代史文庫会館」完成

近代史文庫は一九七五(昭和五〇)年以来、「近代史文庫会館」建設の計画をすすめていたが、松山市紅葉町に四階建ての会館を建築することとなり、この年五月七日に地鎮祭が行なわれた。サークルでは、会館の会場使用と資料、図書類の保管場所借用を近代史文庫に申し入れるとともに、移転に備えて七月二三日から三〇日にかけて、サークルの資料、図書などの整理・荷造り作業を行なった。

結城千恵美は、八月二日、歴教協第三一回東京大会に参加して、第一分科会(「地域の掘り起こし」)で「近代史文庫会館建設運動と地域社会史論」について報告した。

近代史文庫会館は八月十七日に竣工し、八月四〜五日・同一日〜一二日に移転作業が行なわれた。

八月一九日には第二回えひめ母親大会が松山市民会館で開催され、約七五〇名の婦人が参加した。午前中は九つの分科会で討議が行なわれたがこのうち「中学校・高校のもんだい」分科会には約一〇〇名が参加し、国際児童年にふさわしく、中・高校生を交えたパネル・ディスカッションが行なわれた。また、「平和・母親運動」の分科会では篠崎勝が助言者を、谷本純子が司会者をつとめ、「働く婦人のもんだい」分科会では工水戸富士子が助言者をつとめたほ

か、池田せつ・三宮禎子・栗原美奈子らは事務局として大会の運営に参加した。午後の全体会では「日本の子ども達の現状とおとなの役割」と題して丸木政臣(和光学園校長)が講演した。サークルはこの大会の参加者に「むぎ」二一号を頒布した。

九月三日からは、新築された近代史文庫会館にサークルの会場を移した。この日は資料・図書類の整理を行ない、一〇日には母親大会について話し合った。またサークルの会計を松浦正子が担当することを決めた。この日横川節子(愛媛大学勤務)が入会した。

九月一六日には、近代史文庫会館落成祝賀会が、約一五〇名が参加して盛大に行なわれた。サークル会員も二三名(谷本純子・阿部真佐子・阪本敏子・影山澄江・池田せつ・工水戸富士子・栗原美奈子・三宮禎子・結城千恵美・松浦正子・今井由紀子・古谷孝子・二宮敏子・渡部富美子・山口ひとみ・隅田ツタ子・菅節子・和田満智子・汲田美佐子・川又美子・川本健二・玉上陸郎・篠崎勝)が参加し、会館見学者の接待、会場受付などをそれぞれ担当した。祝賀会の第一部では、玉上陸郎は会館建設委員長として経過報告を行い、篠崎勝は文庫代表者として謝辞を述べた。第二部では工水戸富士子が司会をつとめ、川本健二が愛媛教協委員長として祝辞を述べた。また和田満智子作の詩「ぼくら近代史文庫―近代史文庫会館完成によせて」を川又美子が朗読し、サークルの会員全員が「ふるさと」と「ちいさい秋見つけた」の二曲を合唱し、文庫会館の完成を心から祝福した。



篠崎勝は、一〇月一日、北海道北見市を訪れ、北見女性史研究会・オホーツク民衆史講座の小池善孝・大野勝美・木村峰行・黒田和子等のみなさんと懇談した。

### 三、一九八〇年へ向けて

九月下旬、サークルに対し、NHKのテレビ番組「奥さんごいっしょに」への出演依頼があった。同番組で女性史研究のグループをとりあげて紹介する企画をたてたので、北海道・愛知の研究会と愛媛の女性史サークルに、サークルの歴史と現状などについて語ってほしいということであった。サークルでは、一〇月一日の例会で会員にはかり、工水戸富士子が出演することをきめるとともに、内容についても全員で活発な意見を出し合い、討議した。

ついで翌日二日、NHK本部の山本三四郎ディレクターが打合せのため来松、サークルは臨時に例会を開いて、一四名がともに打合せに参加した。ここでは、サークルのなりたち、歩み、人間構成、会員の意識等について応答や意見が交され、なぜ女性史サークルが生まれたのか、なぜ二三年間つづいてきたのか、〃実利実益につながらない〃学習をつづける〃情熱〃がどこからくるのか、また今後私たちは何を、どう学習しようとするのか、等について話し合うなかで、私たち自身、そうした問題を改めて問い直し、考えてみなければならぬことを痛感した。

一〇月二日の「奥さんごいっしょに」は「私たちの女性史発掘」と題して放映され、高橋三枝子（北海道女性史研究会）・脇田順子（愛知女性史研究会）・もろさわようこ（女性史研究者）らとともに工水戸富士子が出演し、サークルの歩みなどについて発言し、またサークルの出版物等も紹介された。一〇月一五日の例会では、テープを聴き、工水戸富士子の報告を聞いて、一日の放送の内容について話し合った。

一月から二月にかけての例会では、「むぎ」二一号の編集についての相談、「愛媛女性史年表」の作成作業を行なった。年表は、一九七七年六月分を山本紀が、七月分を川本健二が、八月分を谷本純子が、九月分を影山澄江・今井由紀子・阪本敏子・古谷孝子が、一〇月分を横川節子がそれぞれ担当し、十一月分を阿部真佐子が担当し、渡部富美子・池田せつ・工水戸富士子らが協力した。

一月二六日には、愛媛母親大会実行委員会の主催で、「国際児童年記念講演会」を開催、約四〇名が参加し、金沢彰（愛媛大学）が「心も身体も健康な子どもにするため」と題する講演を行なった。一月一七日は、この年最後の例会として茶話会を開き、来年の課題・抱負について語り合った。八〇年には、ききがきの続行とまとめを行なうこと、テーマ別報告学習、全国女性史のつどい開催についての検討など多くの課題があり、みんなで知恵を出しあって、楽しくやりましょうと話し合った。なお、この日南海放送の大塚民子ディレクターと「日刊新愛媛」の滝本記者が例会に同席し、南海

放送からはテレビ番組への出演依頼をうけたので、谷本純子・山本

紀・阪本敏子・古谷孝子の四名が出演することをきめ、一二月二〇日と二三日に他の会員も参加してその打合せを行なった。一二月二六日に、南海放送のテレビ番組「奥さまごきげんですか」のなかで「女性この一〇年」のテーマで前記四名が、自分自身の体験にもとづきながら、愛媛の女性の一九七〇年代について語った。

古谷孝子は、子育てをしながら女性史サークルに参加し、ついで仕事をもち、はじめて自分の力で収入を得、直接社会とふれ合って得た喜びと感動を今後も大切にもちつづけたいと語った。

阪本敏子は、姑との同居、夫とともに家業に従事するようになるなど家庭生活の変化を体験し、そのなかでサークル活動にも積極的に参加し、意欲を燃やしてきた一〇年であり、八〇年代には実質的な男女平等の社会が実現してほしいと語った。

山本紀は、東京から松山への移住、教員から専業主婦になった生活にあきたらなかったが、女性史サークルや地域生協運動に参加することによって、新しい生きがいを見出しており、今後も学習と、地域を変える運動をより進めたいと述べた。

谷本純子は、女性史サークルの活動を紹介し、七〇年代は全国各地で女性史研究会やサークルが生まれ、なやみ考える女性の姿を浮きぼりにした一〇年間であり、国際婦人年のめざした意味を自分の問題として考えながら、今後もサークルで学習していきたいと語った。(文中敬称略)

## 付記

本稿は一九七九年一月から一二月までのサークルの歩みと会員がかかわってきた諸活動について、サークルの記録ノートその他の資料により川又がまとめ、サークル全員が検討したものです。資料の不備もあり、たいへん不十分な記述となつたことを反省しています。今後は資料の収集・保管・記録のとり方などについて、日常の努力と工夫を積み重ねていかなくはと痛感しています。

七九年の後半は、思いがけずテレビ出演などが相つぎ、何やら慌だしく、聞き取りや年表作成もおくれがちになりましたが、私たちのサークルでは、テレビに出て話す準備をすることも、放送された後でその内容を話し合うことも、「学習」そのものであり、それは知らぬ間に、全会員が自然に身にかけてきたサークルの気風であることを、改めて思ったことです。

八〇年代がスタートしたところで、今までの「歩み」を振り返り、みんなで話し合いを深めて、八〇年代には何を、どう積み重ねていくかを考えてみませんか。ここ数年間の「歩み」執筆担当者としての感想と提案です。よろしく(K)

# 保守王国と買収選挙

― 県下の衆議院議員総選挙をふりかえる ―

影山澄江

八〇年代国政の方向を決める戦後第一四回目の衆議院議員総選挙が、一九七九（昭和五四）年一〇月七日行われた。愛媛県内の立候補者は（表1）の通りである。

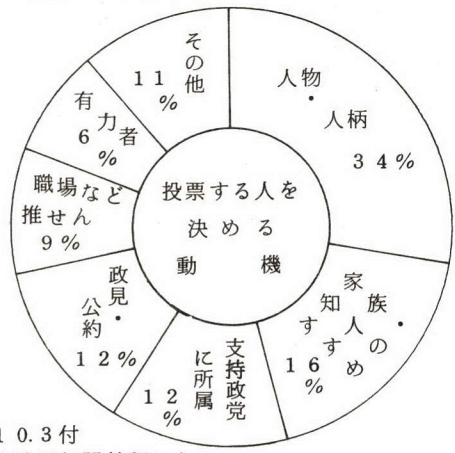
今回の選挙は、当初から争点のはっきりしない、盛り上りに欠け

たシラケ選挙といわれ、国民の関心は薄かったようだ。実際、「総選挙―県民の意識」（愛媛新聞社調べ、10・3付）をみると、選挙への興味は全体でやっと五五％程度。特に「無風区」といわれている愛媛一区では四七％と低調。それでも、二区は五六％、三区は六

（表 1）愛媛県総選挙立候補者数一覧

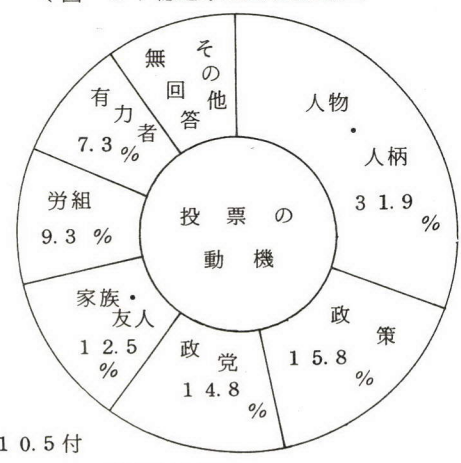
	1 区	2 区	3 区
当 選	3	3	3
立候補	4	6	5
自 民	2	3	3
社 会	1	1	1
共 産	1	1	1
無	0	1	0

（図 1）総選挙県民意識



10.3付  
〈愛媛新聞社調べ〉

（図 2）総選挙全国世論調査



10.5付  
〈共同通信社〉

多とやや高く、激戦・接戦模様が予想された。なお、投票の動機については、前図に示されたように、全国・県共に三割が《人物・人柄》を挙げているが、《政見・公約》は意外に低く、「愛媛二区ではたった一割であった」（愛媛新聞10・3付）。やはり、〃地縁・血縁〃関係は根強い様子。

そうした事柄を裏付けするかのようになり、二区・三区の激戦模様はすさまじく、買収・供応・現金の投げ入れなど黒い噂が乱れ飛んだ。

「県下で初の事前逮捕者」が出たのは、投票日前の九月三〇日。東予署が「従業員を使って有権者に菓子箱（一箱五百円―千五百円、百数十個計十数万円）を配っていた東予市の会社重役を買収容疑で逮捕した」のである。「投票日前に逮捕者が出たのは、県下では四七年の総選挙で戸別訪問による事前逮捕以来。さらに、買収による逮捕者は十数年以上さかのぼっても例がない」（愛媛・10・1付）とこのこと。これをおろそかに、二・三区の熾烈をきわめた選挙違反が露呈された。

こうした買収などの金権選挙に対して、有権者の側からも明るい選挙、悔いのない一票の行使をと呼びかける声もあった。愛媛新聞「てかがみ」欄では九月二七日、婦人の意見を集。脇水成子等二〇人の意見が載せられた。また、一〇月に入ってからも、『付けは選挙後に』（10・3付）、『マジメにやってよ』（10・5付）等の声も掲載された。

門欄にも『一票の重大さ示そう』（10・3付）と西宇和郡・三好

武光（74）は次のように書いている。「（前略）ある政治家は〃ウソを上手につかねば政治家とはいわれぬ〃と憶面もなく言ったとか。（中略）選挙の結果自民党が過半数を得れば一党独裁となって思いのままに支配されて重税を課せられることであろう。これを阻止するには有権者の自覚によって（中略）一票の重大さを示して、思い知らせてやることである」。また、南宇和郡・清水権満（71）も同様に、『実情に合わせぬ選挙法定費』の中で「（前略）全国平均が千四百七十七万余円、本県の場合一区が千三百三十三万円、二区が千三百二十七万二千七百円、三区、千二百八十八万八千八百円だ。（中略）選挙が終わってからの報告もうそばかりだし、（中略）世間ではまた、五当四落（五億円なら当選、四億円なら落選）という噂が流れている。（中略）選ぶ側が慎重を期し、買収や供応に応じてはならないことはいうまでもない。（後略）」と書いている。

更に、同欄10・7付で松山市・三好義孝（54）は『政治と教育の腐食にメスを』と題し、「（前略）五当四落が相場らしいから、一候補五億円とみて、約三千億円なんていうカネが日本列島を縦横に走り回ったことになり気が遠くなる。法定以外のピラ、菓子箱配り、酒食のもてなし、現ナマ配り……。運動員の一人や二人が逮捕されても死刑になるわけではなし、当選さえすればカネで清算しようという寸法に思えて腹がたつ。こうしたことを許す国民の不賢明さこそ問題であるが、これは日本の民主主義教育が国民の一人ひとりの身に着いていなかった証拠でもあるし、またこれは政治によって意

図的に仕組みられたことだとも考えられる。〃民はなるべくバカに仕立てておく方が政治しやすい〃という理があるかどうかは別としても、学歴社会に目を向けさせ、進学競争をあと、点数万端の学校教育にして、青少年学徒は知識の断片を丸暗記する道具に仕立てられた。(後略)と書いている。

ともあれ、大平首相は国債依存率約四〇〇という破局的な国家財政をかかえ、その打解策として自ら増税路線を打ち出し、選挙戦に一般消費税を高く掲げたが、それは野党のみならず、自民党議員にもこぞって反対された。その上、日本鉄建公団の不正経理問題以来各省市のムダ遣いがぞくぞくと暴露され、〃公費天国〃の実態をさらけ出した。

更に、相継ぐ航空機疑惑は「利権やカネを追い求める一党支配の全権体質をあらさまにしたし(中略)政治倫理の荒廃を来した。明らかにした公費天国ぶりは政・官ゆ着の実証である」(10・7付愛媛新聞・社説)。

いよいよ、七日の投票日を迎えた。同日は松山地区では秋祭りとなり、また結果の予測できる無風区で有権者の関心も薄いといわれ出足が心配された。一方、二区は接戦をきわめ、開票速報も夜半まで近差のもつれこみ。当落わずか11票差。「このような少差は本県の戦後総選挙史上はじめて、全国的にも極めてまれなケース」と翌八日の新聞は報じた。

△本県開票結果▽

一区		二区		三区	
⊕塩崎	潤(自民前)	⊕越智	伊平(自前)	⊕今井	勇(自前)
	八一、二二三		七六、五七九		六〇、一四〇
⊕湯山	勇(社会前)	⊕井原	岸高(自元)	⊕西田	司(自前)
	六九、八五三		七三、八六九		五九、三八七
⊕関谷	勝嗣(自民前)	⊕藤田	高敏(社前)	⊕毛利	松平(自前)
	六九、七七六		六八、三三八		五五、八七八
山崎	尚明(共産新)	森	清(自前)	田中	恒利(社元)
	一五、二〇八		六八、三二七		五二、六三三
		木山	隆行(共産新)	高橋	道雄(共新)
			一一、三〇六		三三、二五六
		井川	智隆(無新)		八二八

本県の開票結果は、右のとおりであり、党派別では変化なしであったが、全国的には共産・民社躍進、社会後退、新自ク惨敗、自民史上最低の二四八議席。特に共産党は解散時の一七議席を三九議席に大きく伸ばし、女性議員の進出も他党を引き離れた。(婦人議員は全衆議院議員五一一人中、自民一、社会二、無諸属一、共産七)さて、本県の投票率をみると、七二・三五%と前回(51年12月)に比べ一〇・〇八%も下回った。一区は五九・五七%と前回に比べ一九%も低く、松山市は五二・七五%と県下最低であった。二区は七六・

六三%、三区八四・八八%。投票率の高い三区でも前回より三・三七%低かったが、「それでも九〇%台の投票率は喜多郡長浜町など八町村あり、郡部全体では八七・三九%」（10・8付）ときわめて高かった。

こうした異常とも思える投票率の高さの裏にはやはり黒い魔の手が広がっていた。

『県下の選挙違反、幹部運動員も続々』「西条市議ら6人逮捕、いずれも悪質買収で」と一〇日付の新聞は報じ、一日付では『県下選挙違反逮捕者38人に』「東京について全国で二番目、不名誉な数」「きたない選挙戦裏付け」と、違反者の各派人数を報じた。

更に、一三日付では『投票立会人が酒食でもてなし・北条』と大きな見出し。それによると、「八日、公戦法違反容疑（供応）で逮捕された運動員がその後投票所の立会人をしていたことがわかった」同運動員は地区有力者15人を集めてもてしたが、その中には「北条市選管から委嘱された」明るい選挙推進協議会」の現職委員もおり同市の有権者の間から『きれいな選挙を叫んでみてもこれでは……。ズサンな選挙管理だ』との批判が起きている」と報じ、明るい選挙推進委員の一人（55）は「（前略）北条市は選挙のたびに逮捕者を出し不名誉な話です。これは選管の人選ミスですな」と困惑顔で話し、選管の人選に問題のあることを認めていたとのこと。

一二日までの逮捕者は四六人にふくらみ、全国でもトップクラス。うち三八人までが現金買収容疑。また三区だけでも二八人を出して

いる。「連日のように自派内から違反者を」輩出」させている」三区で当選した自民党候補者氏。『陣営内から多くの違反者を出したが、うちだけが悪いのじゃない。結果として（逮捕者が）多いのは、他陣営のたれこみや刺しこみによるもので、その点、うちは無防備でありすぎただけ』と強弁。（中略）ご当人の口からは買収違反に対する反省や自責の念はうかがわれない。あるのはカネを中心に据えて思考する論理だけ」。また「南予の市部である自民党陣営の中核となって活躍した自民党県議、『一票二千〜三千円が今回の相場だった。渡す側が悪いのか、受け取る側が悪いのか論議より今ではもう完全に」麻薬」になってしまっている。カネが切れたら票が逃げる。（中略）まともに政策や人柄、あるいは演説のうまさで勝負したら、とてもじゃないが（革新陣営に）かなわない』。与えるー欲しがるー与えるーさらに欲しがるの図式は選挙の浄化とは全く逆方向に際限なく拡大しつづけるーというのが同県議の見方だ」（10・13付）。

一方、市民の側からも買収選挙に対する厳しい声も出ている。一日付門欄には八幡浜市・兵頭光雄（64）が『当選議員さん心に恥じる行為はないか』と題し、「（前略）今回は新聞で発表されているところでは、愛媛県が検挙数第一位とのことで恥しいことである。（中略）法を守らない人が法を守らないことで当選し、国会議員た選良だなどと立法院の一員となり、国民の代表た大衆の味方だ県民のためになどと良心のあるものだったら恥しくていえないのではないだろうか。（後略）

次回の選挙からはもっと安心して国政をまかせられる人を選ぼう、と呼びかけている。また同欄には『日本民族に人間性戻るか』（松山市・三好義秀（54）10・20付）、『選挙違反の徹底的摘発を』（松山市・竹内勇（64）10・23付）、『腐敗選挙何とかならぬか』（松山市・屋里直志（65）10・25付）などの意見が掲載された。

なお、愛媛新聞では、二一・二二日の両日「総選挙違反の構造」を特集した。『激しい骨肉の票争い』（上）では、逮捕者が全員自民党候補者から出ていること、後援会名簿に名前を書いてもらうと、一人千円渡している（二区自民党陣営参謀）ことを報じ、「金でどちらでも向く、もらう側に罪の意識なし」（下）では、「これまで摘発した違反は三一件、五人逮捕、調べを受けた者七百人をこえる。（中略）南予の宇和島市では投票日前、五日朝同市内の数戸二十万円をくばる。もらうのが当り前と思っている人もかなり」と報じた。二二日同紙は、二一日に逮捕者が更に一人増え六〇人に達したこ

## 不惑の歳

二〇歳になった時と同じように、三〇歳になった時には私自身が四〇歳になるなど思ってもみなかった。その私が「四捨五入」したら四〇歳になる、と息子にいわれた。

とを報道している。

こうした中で、三〇日午後「買収選挙を糾弾し、民主政治確立を目指す県民運動を展開しよう」と、買収選挙追放県民会議の結成総会が松山市宮田町・県勤労会館で開かれ「た。集会は「愛媛地評（佐伯嘉三議長）が世話人となり結成を呼びかけ、県下労組代表、婦人団体など約四〇人が参加。違反者を出した議員に対し、▽摘発の事態をどう受けとめるか。▽どのような政治的道儀的責任をとるのか。▽県民に責任を明らかにすべきと思うがどう措置するののかの三項目質問書を提出」することに決まった。

国民全般の生活を支える大切な立法院の選挙が、金権で左右されるのは、とても情けない。有権者はもっとしっかり目を見開き、姿勢を正して買収選挙追放に努力しなければならないだろう。遅ればせながら県民の力を結集して運動が盛り上がることを期待し、選挙違反の徹底的追求と責任の所在の究明を心から望むものである。

今 井 由 紀 子

女の三〇歳はインドのように神秘的であって、四〇歳はヨーロッパのように廃虚であるという。私はまだ、廃虚に一人立つかわさを知らない。いや廃虚のかわさばかりではなく、廃虚にもあるであろう

素晴らしさをも知らない。

歳はかくすものではなく、美しくみがくものといわれるけれど、不惑の四〇歳をむかえてもなお、私がユートピアンとよばれるいわれは、私にだって、まだ一度や二度は恋をささやかれる可能性があるがあると、心の奥深くで思っていて、ひそかに期待しているからであるうか。

「廃虚には誰も近よらないと知りつつ、「今、あなた以外の男性から言いよられたら私どうするかしら」と夫にいえば、横でテレビを見ていた息子と顔見合わせて、「またはじまった」という顔をした。

ある時はおもしろがって、ある時はあきれかえって「たしかに頭は若い」と二人している。

自主性がないといわれ続けても、引っこみ思案はなおらないし、自分の尺度で他人をはかつては悔恨の涙をながし、子どもには強いイエスとノーがはっきりいえない私自身がたよりなくてイヤでならない。もともと私は家庭的な女でもなく、素直な女でもない。自己愛だけは猛烈に強く、夫や子どもたちのためにだけ尽すというところが今までなかったように思う。それだけに、妻とか、母とか、主婦などだけで安易にかたづけられたくはないという思いが強い。あなたまかせ、人頼みの生き方を捨てて、私自身の中に眠っている可能性の芽を育てることが、これからの不惑の年をむかえる私に与えられた課題であると思っている。



# 愛媛女性史年表

—一九七九（昭和五四）年六月～八月—

## 凡例

- 一、 記載事項は、すべて、「愛媛新聞」の記事によった。
- 一、 年は西暦と年号を併記し、年ごとの表の欄外右側に記入した。
- 一、 月は、表の最上欄にアラビア数字で記入した。
- 一、 日は、記載事項の頭にアラビア数字で記入した。
- 一、 日付の確定しないもので、上旬・中旬・下旬または月・年の確実な事項は、記載事項の頭に上・中・下・この月・この年と記入した。
- 一、 諸事項を生活（A）、家庭（B）、教育・文化・スポーツ（C）、労働（D）、政治・行政・自治（E）、社会問題（F）、婦人グループ・サークル・団体（G）の七項目に分類し、A、B、Cを上欄に、D、E、F、Gを下欄に記載したが、必要なものは、同一の事項を両欄に記載したものもある。
- 一、 記載事項の末尾に、分類記号（A～G）を（ ）の中に記入した。



月	月
<p>生活、家庭、教育・文化・スポーツ</p> <p>1 新居浜市で「消費者友の会」の主婦三人、「一日計量巡視員」になり、スーパーなどはかりや商品の容量検査実施。量目不足は安売りしている商品に目立つ。はかりが水平におかれていない所も多い」と指摘（A）</p> <p>1 今治市ゴミ減量運動推進会（大笹シヅ子会長・資源有効利用を目的に一九七七年発足）、「いねむり商品交換会」開催（今治市民会館）（A）</p> <p>2 この日付の愛媛新聞、「地軸」欄で、松山市生活厚生課主催「消費者の日記念懇談会」（五・三〇）消費若団体（七団体参加）をとりあげ、一般消費税導入反対運動をすすめるグループ、台所ゴミの再利用によるたい肥をつくり出すグループ、手づくり運動を広めるグループなどがある。小さないと名みによる世直しを大きなうねりにつないでほしいと述べる（A）</p> <p>7 新居浜市の看護婦近藤弓子（三五歳）、この日付の「門」欄で、「政界で不正をする人間を破損人間といわないのに、平均的家庭からずれている家庭を欠損家庭と呼び、非行問題で家庭批判されるのはおかしい」と母子家庭の立場から訴え、「家庭事情に責任があるのではなく、一人一人の心身の健全さによるのではないか」という（B）</p> <p>7 温泉郡重信町の商業大西喜美子（四五歳）、この日付の「てかがみ」欄で、「ハンディを持ちながらも生きる人間と家族がいる一方、死ぬ権利を主張し実践する現代っ子も存在するが、真の子供の幸せを考えるゆとりを持ちたい」という（C）</p>	<p>労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体</p> <p>2 松山市の主婦久須美良美（二六歳）、「門」欄に投稿し、苦しい庶民生活にくらべ、元防衛庁長官松野頼三の五億円は記憶にないほどの価値なのかと憤慨（E）</p> <p>2 松山市の主婦鹿島正子（四二歳）、「門」欄に投稿し、松枯れの真の原因を究明すべきであるとして、薬剤散布を無益で危険なものとする科学者の指摘に耳をかたむけよと訴える（E）・（F）</p> <p>2 「農業の空中散布について考える母親の会」（川又美枝子代表）の母親七人、この日午前三時から薬剤の飛散状況を調べるため、散布予定地域に隣接する地点四〇カ所と会員二〇人の自宅前に試験用ドリスト紙を設置、地区巡回実施。三〇日後に回収し、資料にするという（E）・（F）・（G）</p> <p>2 この日付の愛媛新聞「伊予の女性」シリーズで、松山市連合婦人会長仙波トメ子（五五歳、松山市永代町）を紹介。市連は創立三一年目、会員一万三、〇〇〇人、情報交換が最大の仕事、活動は支部が展開。町内のお母さんが気軽に集まる会にすることが発展の道という。「ともしび母親クラブ」事務局長・「生活センター友の会」会長・民主委員をかねる。「市連合婦人会は、平均年齢四六〜四七歳で生活実感反映の問題は少なく、活動も鈍い。ポスト争い、陰湿な駆け引きのウワサが絶えない」と記者が指摘（G）</p> <p>4 伊予郡砥部町川井団地住民（岡野鏡子三四歳ら代表四人）は、町と県にマツクイムシ防除空中散布反対の要望書を提出（E）・（F）・（G）</p> <p>5 西条市の主婦久保富美子（六五歳）、「門」欄に投稿。国際児童年</p>

月 生活、家庭、教育・文化・スポーツ	月 労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体
<p>6</p> <p>9 この日付の愛媛新聞、「伊予の女性」欄で、西条市議会初の女性議員菅野仁美（公明党・三六歳）を紹介。「女性として、母としての立場を貫き、学童保育と中学校の給食を四年間かけて取り組んでいきたい」という（C）</p> <p>9 「うわじま・ミズ・フォート・サークル（三好真矢代表）のOL・主婦七名、第五回写真展を開催（宇和島市公会堂）。六年前に発足の写真クラブで、女性だけで創作活動（C）</p> <p>10 この日付の愛媛新聞、愛媛合唱団（林一幸団長）の専従者岡田紀子（三四歳）を紹介。同合唱団は、一九七四年四月二日発足、現在団員四六名研究生八名。「愛媛音楽センターを建てたい。女性団員が長続きしない」という（C）</p> <p>13 南宇和郡在住の主婦宮本松子（三五歳）、この日付の「門」欄に投稿、現在の先生は中学生に対して、その心理を考えずに皆の前でどなったり、先生の集団が一人の生徒に意見するなどしばしば見聞きするが、納得のいくまで、子供の話を聞いてからにしてほしいと述べる（C）</p> <p>15 松山中央テレビセミナー「小学校PTAコース」開講式開催（市庁大会議室）、市内三八小学校PTA代表約二六〇名参加。テレビ番組を素材に、グループ活動を進め、PTA活動を教育的に高めるのがねらい。小学生をもつ母親対象に、一二月まで開講（C）</p> <p>17 松山市の主婦一色澄子（四六歳）、この日付の「門」欄に投稿し、「清掃不参加の罰金」という投書に対し、人情味のない世の中になったと嘆き、お金ですます割りきり方に疑問をなげる（A）</p>	<p>6</p> <p>6 新居浜市で、高齢者の「さつきバトミントンクラブ」（永易明会長・五五名）発足。体力づくり、成人病予防、老化防止を目標に男子五〇歳以上、女子四〇歳以上に限定。男子二〇名、女子三五名参加。今後週二回、三時間ずつ練習の予定（F）</p> <p>6 松山市の主婦玉井トシ子（五四歳）、この日付の「てかがみ」欄で、NHKテレビ「激動の記録〜昭和一五年〜二〇年」を見て、「聖戦完遂」の名のもとに「大本営発表」を真実と思わせられたことへの怒りと後悔をこめて、二度とくり返さないため「息子や孫たちに、戦争の悲惨さを語りつぐ以外に道はないと思う」という（E）</p> <p>9 松山市衣山の青山久美子（四八歳）、「私の卒業写真」欄で、一九四七年三月の松山城北高等学校四年梅組の卒業写真に、空襲で犠牲になった二二名のいないことを残念だと語り、現在三人の子供達に平和の尊さを語り続けていると述べる（E）</p> <p>9 松山市祝谷の主婦栗林栄（六七歳）、この日付の「てかがみ」欄に投稿、道路が舗装され、土の道がなくなって寂しいと述べる一方、太陽、土がなくても育つ野菜のテレビ放送に驚き、それが農薬に勝った細菌の繁殖力のために研究されていることから、政界の土壌を取り捨てて、ガラス張りにし、テレビにうつったら国民も納得するのにと皮肉る（E）</p> <p>10 「松山保育料を引き下げる会」（代表田中孝子）の約二〇名が大街</p>

- 18 松山市の無職志美寿規子（一九歳）、この日付の「門」欄に投稿、正しい手紙の書き方を知らない現代人をなげき、「二三日をふみの日」と決めても、書けないのが実情という（C）
- 20 すつきりすこやかえひめ協賛第一回愛媛県レディース軟式庭球大会（愛媛新聞社、県OG軟式庭球協会主催）開催（松山市堀之内市営テニスコート）、二〇八名参加（C）
- 22 西条市の主婦末光和子（三八歳）、この日付「てかがみ」欄に投稿、「西条くらしの会」主催の講演をきき、合成洗剤の恐ろしさを痛感「今日から無公害洗剤を使用する」と述べる（A）
- 23 この日付の愛媛新聞「伊予の女性」シリーズで、北宇和郡津島町上植小学校校長上甲早月（五三歳）を紹介、「へき地こそ教育の原点」という上植小学校は、へき地三級校、児童数二〇名。（C）
- 23 太平洋戦争で小学校の修学旅行を犠牲にした一九四四年西条国民学校（現西条小）卒業生、三五年ぶりに高知へ修学旅行。男二四名、女一一名、恩師七名ら家族含め四五名参加（C）
- 27 伊予郡中山町中山中学校（満田泰三校長、生徒二二六名）PTA主催「親子レクリエーションの集い」開催（同校体育館）、「親子のつながりを深め、楽しい家庭づくりを進めたい」と、父兄ら一四八名生徒とともに参加（B）
- 30 愛媛県議会で、県総務部長、「私学助成について、新たにヒノエウマ特別助成や授業料助成を実施する考えはない」と答弁（C）
- この月県警・防犯少年課、今年上半年期の県下の少年非行概況をまとめ、「放任家庭に非行少年が目立ち、母親の役割が問われている」

- 道で、値上げ反対の署名運動。同会は、さきに市長に値上げ取り消しを求める行政不服審査請求を提出（5・18）。ついでこの月一二日に「保育料の値下げ等についての請願書」を市議会議長に提出の予定。またこの月一六日に「保育料値下げ大集会」（番町公民館）開催の予定（E）・（G）
- 上 キリスト教系社会福祉法人聖隷福祉事業団（長谷川保理事長）、有料老人ホーム「松山エデンの国」（松山市祝谷六丁目）建設計画、近く起工式の予定（一九八〇年五月完工、六月から入居）。マンションとホテルをドッキングさせたタイプで、将来病院も加える意向。入居費六八〇万〜一、四八〇万円、月々の共益費一人七〜八万円。（F）
- 12 「松山保育料を引き下げ会」（田中孝子代表）の六名、松山市議会に、約四六〇〇名の署名簿を添え「保育料値下げ等についての請願書」を提出（G）・（E）
- 12 上浮穴郡久万町母子福祉大会（高門頼子会長）開催、久万町菅生の県道沿いに花壇づくりとゴミ集め実施（G）
- 13 七九年原水爆禁止世界大会成功めざし国民平和大行進四国コース（約八〇〇キロ）の一行約一〇〇人、松山市石手川公園内の原爆慰霊碑前で県被爆者の会々長久保伸子の激励をうけ行進開始（一九日に香川県に引き継ぐ）（F）
- 13 社会福祉法人福寿会が建設した特別養護老人ホーム「川之江荘」（川之江市川之江町長須）落成式。宇摩地方ではじめての施設、定員五〇人（F）

6	月 生活、家庭、教育・文化・スポーツ
6	月 労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体
20	<p>14 松山市の主婦横田幸子（三五歳）、この日付の「門」欄に投稿、マツクイムシ防除の薬剤空中散布の飛散状況調査に参加した際、潮見地区に限り、地区総代、土地改良区理事長の名で「私有地に無断で立ち入らないように」というはり紙をし、空散された私有林のほかに公道まで三日間立ち入り禁止の措置をとり、調査者に対して監視や尾行を行った事実をあげ、「真実が明らかになるのを恐れているのではと疑わせた」という（F）</p> <p>15 松山市の主婦松本正子（五七歳）、この日付の「門」欄に投稿、「ノーカーデー」で「市長、助役もそろって電車通勤」という報道に対し、四年前、市長就任時に電車通勤でという話を思い出し、ぜひ初心を貫いてほしいという（E）</p> <p>17 県民たすけあい総参加運動推進会議、在宅福祉サービスを目標とし、各地区の家庭奉仕員が、身体障害児（者）、寝たきり老人に、①愛の一声②入浴、給食配食手伝い③ふとん干し、洗たくの奉仕活動を進めることを決定（F）</p> <p>18 この日の愛媛新聞社説、環境庁の調査で、マツクイムシ防除剤の空中散布は有害とわかった、"直ちにやめよ"と述べる（E）・（F）</p> <p>19 南宇和共立施設組合の南宇和養護老人ホーム「南楽荘」（田中一郎施設長）落成式（城辺町緑）（F）</p> <p>20 松山市の松枯れ防除薬剤の空中散布に反対する潮見地区の母親らで結成する「農薬の空中散布を考える母親の会」（川又美枝子代表）、</p>

- 21 中村市長に潮見地区の空中散布(六・二)の中止とその他の方法による駆除にきり替え要望書を提出。市では、二回目の散布を計画通り実施予定、同会員らは飛散状況調査の予定(E)・(F)・(G)西条校区婦人会(加藤静枝会長、六〇〇人)、西条市立養護老人ホーム(伊藤十所長、四六人)を慰問一九五四年以来二六回目(F)・(G)
- 22 温泉郡の商業大西喜美子(四五歳)、この日付の「門」欄に「老人の奉仕に学ぶ」と題して投稿、激動期を生き抜いてきた老人たちとともに助け合い、喜びを分かちあう信念を学びたい、と述べる(F)
- 23 久方地方コミュニティ協議会主催「生活運動研究交流会」開催(上浮穴郡小田町)、河野修久万町長、大野愛子郡連会長ら三九名参加。今年度生活学校開設決定、各婦人会活動報告、地域の問題点を討議(G)
- 23 この日付の愛媛新聞で中島通子(弁護士)、国会(六・六)で可決承認された「国際人権規約」について、批准を形式だけに終わらせないため、今後の運動が大切と主張(E)
- 24 「上浮穴郡婦人指導者研修会」開催(上浮穴郡小田町参川小学校)、郡内の婦人役員ら一四〇名参加「みんなであらしを見直し、私たちの健康は私たちの手で」をテーマに三分科で討論(G)
- 30 県議会で知事、「青少年問題に県、県教委、県警が一体となって総合的に取組む。当面インベーターによる飛行、遊び型非行の防止を徹底し、国際児童年については県内児童館、児童遊園地の設備、内容充実を県民運動としたい」と答弁(E)・(F)
- 30 今治市在住の主婦石水和水(四九歳)、この日付「てかがみ」欄に

月 生活、家庭、教育・文化・スポーツ		7
月 労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体	6 「中国への旅」と題して投稿、二週間中華人民共和国を訪れ、「退廃的な文化を拒否し、一切のむだを省き、実効ある生産に励む人民と計画的な国土建設」を感じ、「軍国主義日本が残したつめ跡を、私たちの手でしょく罪しなれば」と述べる（E）	7 5 この日付の愛媛新聞、宇摩郡新宮村の「少年自然の家」責任者藤井重雄（五七歳）を紹介、「野性生活で失敗させることも将来自立する基礎的訓練である、今の親も教師も過保護である」との談話掲載（C） 5 県警、青少年の有害環境の総点検と街頭補導を県内各地で一斉に実施。喫煙、暴走などの不良行為少年一六七人を補導、たまり場は喫茶店と遊戯場という（C） 6 大洲市の主婦富永洋子（三二歳）、この日付の「門」欄に投稿し、「まとまりのある授業をするのが今の『いい先生』なのか、子どもの心に一生残る支えを与えてくれる先生が少なくなつた」と言い、「子どもを良く知る先生が多くなること」を要望（C） 6 喜多郡の学生尾崎麻里（一七歳）、この日付の「門」欄に投稿して「近ごろ、じゃんけんを知らない子、遊びを知らない子が多い」と言い「自由時間をふやし遊びをふやしてあげて」と訴える（C） 12 周桑郡丹原町内の小規模校三校の児童（計七六人）、田滝小学校で協同学習会。運動場で青空教室開設、県指定無形文化財「おれん踊り」を上演（C）
		7 1 愛媛新聞、「日本女性学会」の発足を報道（G） 2 松山市の主婦久須見良美（二六歳）、大手スーパーがインベーターゲームの機械を撤去したことを歓迎して、この日付の「門」欄へ投稿、「子供たちが戸外で遊べなくなつたからであろうが機械に遊ばれるのはいや」と述べる（F） 3 周桑郡小松町石根地区生活学校開校式、周桑農協石根事業所長の呼びかけ、農家の主婦など四〇余人参加。今後三年間、食品添加物、使い捨て思想の検討、地域の美化運動などに取り組むという（G） 4 越智郡の赤松あやの（六三歳）、「門」欄に投稿、「愛大医学部の汚職は残念。厳しい責任と自覚が要求される。県民の期待する医師の輝く殿堂となるよう願う」と強調（F） 5 「青少年を非行からまもる全国強調月間」中のこの日、警官約二〇〇人、県・市町村職員・教員・婦人会員など約一七〇〇人で青少年のたまり場を中心に街頭補導を実施（F） 5 大洲市の女子高校生殺人事件（本年三月）の犯人として少年（一七歳）を起訴、テレビ番組に刺激されたという（F） 6 松山市持田幼稚園の園児一二〇人、市内荏原町松山養護老人ホーム



- 13 上浮穴郡美川村の三小学校（児童数各三〇人〜八〇人の小規模校）合同「交流学習会」を開催、三校児童一六五人参加（C）
- 13 この日から第三回働く青少年の作品展（県・愛媛婦人少年室主催）開催（松山市のNHK一階ロビー）、県内七カ所の勤労青少年ホームの作品（書、画、陶芸、手工芸品など）約一四〇点展示（C）
- 14 八幡浜市の県立八幡浜学園（知恵遅れの子ども三一人収容）、第七回目の学園夜市を開催、VYS会員等の若者も参加、金魚すくいや買物を楽しむ（C）
- 15 松山市の主婦正木美奈子（三九歳）は「てかがみ」欄に投稿、子どもをのしを回想して、自動車の通らなかつた道路や大きな松の木が遊び場で、自然を相手に情緒豊かに自主性や思いやりの心が育った。近頃は「きまり」がふえて子どもを信じられないのか疑うと述べる（C）
- 15 自転車の安全な乗り方を競う交通安全こども・母親自転車県大会（県交通安全協会主催）開催（愛媛県民館）、各地区から選抜された小学生九五入・母親八五人参加（C）
- 16 県立西条農校生徒・教職員、市内公園や駅前広場で樹木・花壇の手入れ実施（C）
- 17 伊予警察署はこの日までに高校生一人を検挙、補導、二一カ所二四回にわたりモーターバイクなどの窃盗、公衆電話機あらし、万引など、家庭では、高校生の無断外泊、夜遊びに気づかなかつたという（C）
- 18 食品公害を勉強している西条くらしの会（有重由紀子代表）、豆腐に食品衛生法で禁止されているけい光染料が含まれていることを発

- 江南荘（二四八人）を訪問、七夕まつりをする（F）
- 7 東予市太陽のお母さん運動推進協議会（秋川マチ子会長）の大会開催（東予市民会館）、婦人会員など一〇〇人余参加。覚せい剤の乱用防止について東予保健所、警察関係者の講演をきき早期発見、早期治療の認識を呼びかけることをきめる（G）
- 9 大洲警察署、大洲・八幡浜の高校生一五人を検挙、地検へ書類送検模造コインを自動販売機やインベーダーゲームに使っていた（F）
- 10 西条市教委、同市警察署関係者による学校・警察連絡協議会開催、五〇人参加。夏休み中の子ども非行、水の事故、交通事故の防止に町ぐるみで取り組むことを申合せ（F）
- 11 松山市の事務員青木みどり（二八歳）、「門」欄に投稿、「右翼の宣伝カーの異様な音量、広告宣伝カーの強烈な音で日常の仕事や生活が乱される」と抗議（F）
- 11 伊予市、伊予郡の小・中・高校の関係教諭、同青少年補導センター、伊予警察署の関係係員による伊予地区学校警察補導連絡協議会開催、三二人参加。夏休み中の非行防止について話し合い（F）
- 14 八幡浜市が同和対策事業として建設した福祉会館の館長人事について、住民側と市の推薦者が一致せず、市側が一方向的に任命したことに地元が反発、福祉会館運営規則中の「地区住民の要望を把握し反映する」項目を市自らが破っていると抗議（E）
- 14 愛媛新聞の社説「警察白書にみる少年非行」で家庭・学校・地域の有機的な連絡の必要を説き、「よその子供をしかる運動」を広げることを強調（F）
- 15 松山市の主婦久須見良美（二六歳）、「門」欄に投稿し「菊田医師

月	生活、家庭、教育・文化・スポーツ	月	労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体
7	<p>18 見、この日西条中央保健所、製造業者に商品回収を指示（A）</p> <p>五十五年度全国高校総合体育大会入賞メダル凶案の最優秀作に松山南校砥部分校一年生渡部幸子の作品を選ぶ（C）</p> <p>中 松山市の精薄児通園施設あゆみ学園（社会福祉法人、園長関岡武太郎、園児一七人）、市周辺の三歳児以下の情緒障害児をかかえる母子に開放し、週二、三回の継続的通園療育の実施をきめる。赤十字病院の医師指導（C）</p> <p>中 伊予三島警察署の本年度上半期の少年非行実態のまとめによると、小学生、女子、有職少年の非行が増加（C）</p> <p>21 松山市朝日ヶ丘の愛護班（坂本寛班長）の父兄子どもたち四〇人、上浮穴郡久万町を訪ね、畑野川小学校児童と交流、農山村の生活を体験（C）</p> <p>22 新居浜市中萩地区で防犯推進大会開催、防犯協会中萩支部役員、地元住民など三五〇人参加、〃愛の一声運動〃推進で青少年の非行防止、健全育成を図ることを決議（C）</p> <p>27 この日付の愛媛新聞「全国わたぼうし音楽祭」作詩の部に入選した越智こずえ（越智郡菊間町、二一歳）を紹介。生後間もなく脳性小児マヒにかかり、手や言葉が不自由にもかかわらず、生きる〃あかし〃を詩に綴る（C）</p> <p>29 新居浜市の県東予児童相談所（戸井田多喜男所長）、今年度初の愛育学級開催（同市・身体障害者福祉センター）。母子三〇組と保母ら六〇名参加。10・13・14 伊予三島市、11・18 東予市でも開催の予定（A）</p>	7	<p>15 の赤ちゃんあつせん事件は許せない行為だが、同医師の人命尊重第一の行為は許せる、墮胎は医師と母の殺人である、子供が生きていける世の中でありたい」と主張（F）</p> <p>植木、野菜から骨とうまで、何でも安い朝市、東予市三津屋で開催、一方人の人出。周桑郡内の養護施設の子らが並べた手作りの人形・野菜コーナーも黒山の人だかり（F）</p> <p>18 この日付の愛媛新聞、法制審議会小委員会がまとめた相続に関する民法改正要綱試案を解説。「妻の相続分の引き上げ、嫡出子と非嫡出子との相続分を同等にすること」に各野党は基本的に賛成、自民党は時規尚早という（E）</p> <p>18 県警の福祉犯罪取り締り、一七歳の少女をホステスとして午前一時まで働かせていたクラブ（松山）、一七歳の少女を二カ月に亘ってウエイトレスとして働かせていたスナック（新居浜）など九件を検挙、少年二六人を補導（F）</p> <p>19 愛媛新聞、この日から松山市で日本看護学会全国大会の教育分科会が開かれるのを機会に、県内の看護教育施設・看護業務の重要性と実態を報道（F）</p> <p>20 県青少年対策本部、夏休み期間中の青少年非行防止のため「小中高生はインベーダーゲームをしない」などの指導方針を学校、PTA関係業者、補導センターに指示（F）</p> <p>20 青少年を非行からまもる松山地区懇談会開催（番町公民館）、県福祉部や警察の職員、少年補導委員、住民ら約一〇〇人参加。「自分の子供に対するのと同じように他の子供にも愛の一声を」、「家庭</p>

- 29 周桑郡小松町で五穀豊じょうを祈る郡内の伝統民俗行事「たのもさん」作り開催（中央公民館）、地元南川老人クラブ（伊藤会長）三人や多数の小松小学校児童参加（C）
- 30 〃 8・3 新居浜市垣生愛護班連絡協議会（首藤健会長）主催「水泳教室」開催。泳げない小学校低学年対象。市から指導員を招く。初日は一〇一名参加（C）
- 30 〃 8・30 〃 親と子の陶芸教室」（伊予郡砥部町中央公民館主催）開催（同公民館）。町内三小学校（砥部、宮内、麻生）の児童と親が一二〇名参加。親子ペアで講話、実習、鑑賞等を行う（B）・（C）
- 下 第七回愛媛青年俳句大会（愛媛大学俳句会主催）開催、高校生が多数参加（C）

- と地域が一体となって」、「補導員も街頭だけでなく地域住民の中に溶けこんで」など意見交換（F）
- 21 愛媛新聞、松山市下伊台の岡本喜美江（六五歳）の談話を報道。一九四二年四月秘密動員で出征、同四五年四月ビルマで戦死した夫の遺骨箱には小さな木片しかなかったという（F）
- 21 〃 22 原水爆禁止四国大会（原水禁愛媛協議会主催）開催（松山・四国大通会館）アメリカ・スリーマイル島事故についても学習（F）
- 23 西条くらしの会（有重由紀子代表）、学童給食用マスクにもけい光染料が含まれているとして市に改善を要求、この日、市保健体育課、けい光染料を含まないマスクに切替えると回答（F）・（G）
- 24 今治市の特別養護老人ホーム「唐子荘」（大田垣清志院長、五五名収容）で夜市開催。若者のボランティアグループ「ありんこの会」（近藤健太郎会長）が協力。今年で三回目（F）
- 28 〃 29 県・今治市母子福祉会・越智郡母子福祉会主催、〃 キャンプ〃開催（大西町鴨池海岸）。母子家庭の子供ら、ボランティアグループら約八〇名参加（F）・（G）
- 29 新居浜市の県東予児童相談所（戸井田多喜男所長）、今年度初の愛育学級開催（同市・身体障害者福祉センター）。母子三〇組と保母六〇名参加、10・13〃14 伊予三島市、11・18 東予市でも開催の予定（F）
- 29 この日付の愛媛新聞、「戦地への便り」と題して「てかがみ」特集を掲載。今治市在住の主婦和田静（五六歳）をはじめ二〇名投稿（F）
- この月 西宇和郡三崎町の俳句グループ「さざなみ」（農業者、主婦ら約五〇名）句会の一七人、同郡保内町平家谷に吟行。途中伊方町九

	月	8
生活、家庭、教育・文化・スポーツ		<p>1 松山市在住主婦久須見良美(二六歳)、この日付「門」欄で「子供の事故をきくにつけ、胸が痛む」と述べ、「大人は、コチコチの頭で子供をしぼる傾向があるが、子供の柔軟性にとむ頭を考えてやりたい」「子供の事故を防ぐのが大人の役目」という(B)・(C)</p> <p>2 松山消費者団体連絡協議会(大西美弥子代表・五つの消費者運動グループで構成)、国際児童年で子供商品の調査、研究の検討会開催(約一〇名参加。おもちゃなどの安全性への疑問、資源ムダ遣いなど問題商品を指摘、八月末再検討会開催ののち、調査結果を一月末開催の「みんなの消費生活展」で発表予定(A))</p> <p>5 “老人と子供の談話室”(西条市中央公民館主催)開催(同市上喜)</p>
労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体	<p>この月 西条市農協(大谷健一組合長、四、三〇〇人)、組合農家を対象に成人病検診を一昨年より実施。この月以降検診会場増設、地区ごとの座談会開催(十一月)、主婦ら参加者の出足好調。各事業所を一〜二回ずつ巡回し、医師、保健婦ら二〇数名が検診と健康指導を担当(F)・(G)</p>	<p>1 この日付「生活診断」欄に犀川千代子(弁護士)、「生理休暇の要否は、具体的にきめ細かい検討が必要だ」と述べる(D)</p> <p>2 松山消費者団体連絡協議会(大西美弥子代表・五つの消費者運動グループで構成)、国際児童年で子供商品の調査、研究の検討会開催(約一〇名参加。おもちゃなどの安全性への疑問、資源ムダ遣いなど問題商品を指摘、八月末再検討会開催ののち、調査結果を一月末開催の「みんなの消費生活展」で発表予定(G))</p> <p>9~10 伊予市の心身障害児の親のつどい「手をつなぐ親の会」(鴨川操子会長、四五人)、昨年につづいてレクリエーションキャンプ(伊予郡双海町高野川)開催、同市内の小・中学校特殊学級生・伊予</p>

- 21 中 多川第一社会会館)、神拝地区老人会(国田徳太郎会長)一〇〇名  
神拝小六年男女三〇名参加、歌やコントで楽しむ(B)
- 15 13 松山市の無職仲島柳子(七〇歳)、この日付「門」欄に「郵便料金  
値上げより利用者増図れ」と題して投稿、郵便料金の赤字は「利用  
者側でなく、郵政の欠陥にある」と指摘し、「料金値上げを短絡的  
に考えず、利用者をふやす工夫もはかるべき」だと主張(A)
- 15 16 この日付の愛媛新聞「身の回りを見つめて」県下の消費者グル  
プと題して「西条くらしの会」(有重由紀子代表)の活動を紹介。発  
足して四年、主婦ら四〇数名、毎月一回例会開催。これまで、お  
かしの合成着色料有無の調査などを実施、この一年間はOPP(輸入  
レモンの防カビ剤)の追跡調査実施、月一回会報「つぶやき」発行  
(三七号)(A)
- 15 17 この日付の愛媛新聞、「伊予す」復活にとりくむ上浮穴郡久万町西  
明、農家高齢者創作館を紹介(A)
- 15 17 新居浜市大島に三〇〇年伝わる盆踊り「念仏踊り」二〇年ぶり  
に復活(C)
- 16 この日付の愛媛新聞、「身の回りを見つめて」県下の消費者グル  
プ」と題し松山市の「四つ葉グループ」(星野旺子会長、三〇歳か  
ら七〇歳代の主婦三六人で構成)を紹介。これまでトウフ、うどん  
食パンの三品調査、特に小遣いにかえる文房具を中心にデータを取  
作成中、今後は「小麦粉改良剤」にとりくむ予定(A)
- 中 県生活センター主催「子どものくらしを見なおそう」展開催(松山  
市堀之内NHKロビー)(C)
- 県、国際児童年記念行事「えひめ児童会議」開催(県生活文化セン

- 15 10 市VYS(片岡佐喜子会長、一五人)のメンバー等約七〇名参加、  
海水浴やゲームを楽しむ(F)・(G)
- 15 10 新居浜市の会社員早坂真理子(一八歳)、この日付「門」欄に「戦  
争のこわさを考えるとき」と題して投稿、「戦争の恐ろしさは体験  
した人が一番よく知っている」が、戦争をしらない「私たちは、そ  
の悲惨な現実にあえて目をみひらいて考える時」だと主張(E)
- 15 11 松山市の無職重松市(七三歳)、この日付「門」欄に「核兵器に反  
対し憲法を守ろう」と題して投稿、原水爆禁止運動の統一のみられ  
る現在、憲法九条改正の動きがあるが、「安保条約がある限り、憲  
法九条は必要」であり、「核兵器に反対し、平和憲法を守ること  
そ日本人の責任」だと主張(E)
- 15 11 この日付愛媛新聞「伊予の女性」レポートで、特別養護老人ホーム  
「光来園」労組執行委員長北川フツ子(宇和島市・四五歳)を紹介、  
一九七四年労組結成以来の執行委員長。組合結成前は労働条件劣悪、  
結成以後、大幅な待遇改善。「人間をお世話する仕事は、自分たち  
が悪い状況に置かれていたのでは本当のサービスができない。豊か  
な気持ちでお世話できてこそ、本当の社会福祉だ」という(F)
- 15 13 今治市在住の主婦石水和水(四九歳)、この日付「てかがみ」欄に  
「平和祈念」と題して投稿、「戦争は殺し合いで決してかっこい  
いものでないことを語り伝える」ことが必要と指摘(E)
- 15 14 新居浜市在住の主婦河野寿枝(五三歳)、この日付の「てかがみ」  
欄に「忘れまいこの記録」と題して投稿、夫の陸士同期生が戦友の  
最後の状況をつづった記録集を伝え残したいと述べる(E)
- 15 31 「戦争を考える本展」(周桑郡小松町教委主催)開催(同町・

月	生活、家庭、教育・文化・スポーツ	月	労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体
8	<p>22 ター)児童五〇名参加。「今日の私たち、二一世紀の私たち」のテーマで児童が会議を運営(C)</p> <p>22 「えひめ子ども大会」(県主催、県教員後援)開催(県民館)、県内児童福祉施設の児童、「えひめ児童会議」出席児童など、約二、〇〇〇名参加(C)</p> <p>22 「上浮穴郡社会教育研究大会」(テーマ「上浮穴における連帯意識を高め、今後よりよい生き方を創造する社会教育はとうあるべきか」)開催(同郡小田町)、郡内二町三村の町村長・婦人会・老人会など、二五〇名参加(C)</p> <p>22 この日付の愛媛新聞、「野菜の無人スタンド」(上浮穴郡久万町)を紹介。五年前から出荷の残りものを利用して同町入野国道三三三線沿い二カ所で開始、主婦に好評、一〇月末まで店開き(A)</p> <p>25 松山市、国際児童年記念行事「松山子ども大会」(市子ども会育成者連絡協議会、市教委、市主催、愛媛新聞社など後援)開催(松山市青少年センター)、市内の小中学生約一、〇〇〇名参加。小中学生の図画などの展示、集団ゲーム、伊予方歳など実施(C)。(E)</p> <p>26 県家庭婦人バレーボール・クラス別大会」(松山東雲短大ら三会場)この日から開催(11・4)三一チーム二、〇〇〇余名の参加予定。愛媛新聞社提唱「すつきりすこやかえひめ」運動の一環(C)</p> <p>27 県教委、「家庭教育総合セミナー」開催(宇和島・大洲・新居浜・今治・松山)、研究主題、家庭における父母の役割、子供の発達とつけ、地域社会に開かれた家庭教育。幼稚園・小・中高のP</p>	8	<p>15 温芳図書館)、太平洋戦争に関する本、写真、パネルなど三〇〇点余展示(E)</p> <p>15 越智郡大三島在住の主婦村上ちず子(四七歳)、この日付の「てかがみ」欄に「平和の陰に」と題して投稿、「国の礎となった幾多の犠牲者とともに、いまだ悲惨な重荷を背負って生き抜いている人々を忘れてはならない」と訴える(E)</p> <p>15 この日付の愛媛新聞「身の回りを見つめて」県下の消費者グループと題して「西条くらしの会」(有重由紀子代表)の活動を紹介。発足して四年、主婦ら四〇数名、毎月一回例会開催。これまで、おかし合成着色料有無の調査などを実施、この一年間はOPP(輸入レモンの防カビ剤)の追跡調査実施、月一回会報「つぶやき」発行(三七号)(G)</p> <p>16 この日付の愛媛新聞、「身の回りを見つめて」県下の消費者グループ」と題して松山市の「四つ葉グループ」(星野旺子会長、三〇歳から七〇歳代の主婦三六人で構成)を紹介。これまでトウフ、うどん、食パンの三品調査、石けん運動など実施、昨年から子供の周辺調査、特に小遣いでかえる文房具を中心にデーターを作成中、今後は「小麦粉改良剤」にとりくむ予定(G)</p> <p>19 在宅身障害児対象「愛育学級広見教室」(南予児童相談所主催)開設(北宇和郡広見町・さくら保育所、児童二〇名ほか、保護者、保母、約五〇名参加講演(八木隆太郎宇和島病院小児科医長座談会(F)</p> <p>19 「第二回えひめ母親大会」(えひめ母親大会実行委員会主催、愛媛新聞社など後援)開催(松山市民会館)、約七〇〇名参加。//国</p>

- T A 会員、婦人学級のメンバーなど一会場二四〇名参加 (B)・(C)
- 28 この日付の愛媛新聞「離婚を考える本」があいついで出版されていることを報道 (B)
- 28 この日付の愛媛新聞、新居浜市黒島地区に伝わる「黒島百八踊りの継承運動」とりくむ黒島婦人会 (白石美喜子会長、一八人) の活動を紹介。先祖供養の盆踊りとして四〇〇年間つづいたが戦後すたれる。多喜浜公民館の飯尾修主事 (四六歳) のよびかけで婦人会が八月一七日より連日練習、東予地区芸能大会 (九・二) で発表予定 (C)
- 28 (新居浜市在任の主婦高石針子 (四六歳)、この日付「門」欄に「PTA 検討会料亭でなぜ?」と題して投稿、「乏しい P T A 財政をしている立場の者が、校舎建築の見学旅行、料亭での検討会などに疑問をもたなかった」ことに反省を促す (C)
- 28 来県中の「東京童話会」(事務局、東京・尾形寧吉会長、一〇〇名)、「童話の話し方教室」開講 (周桑郡丹原町福祉センターなど同町内三カ所)。同会 (一九六二年東京都内の教師を中心に結成、童話の普及グループ) は、毎年夏休みに全国を巡回指導、この日、会員七人による童話の話し方指導と講演。「幼児に与える話し方」(尾方寧吉)、保母・主婦ら二〇〇名以上参加 (C)
- 28 松山市の中学生村上容子 (一四歳)、この日付「門」欄に「押しつけ教育なくしよう」と題して投稿、「親が子供に押しつけ教育をしているので、子供の自殺や反抗が増えた」、「子供に自由な選択をさせればよい」と述べ「高校の義務化、学区制を」訴える

- 際児童年を母親の愛と行動でみのりあるものに」をテーマに、午前中九分科会に別れて討論 (くらしと権利の問題、平和・母親運動、子供と教育の問題など)、そのうち、「中・高校生分科会」のパネルディスカッションに約一〇〇名参加、午後全体会、記念講演「日本の子ども現状とおとなの役割」(丸木政臣和光学園校長 (G)) 県生活センター主催「子どものくらしを見なおそう」展開催 (松山市堀之内 NHK ロビー) (E)
- 中 松山市の家庭奉仕員 (ホームヘルパー)、今年五月下旬労働組合結成 (二六人のうち二二人)、雇用主の同市社会福祉協議会 (会長中村時雄同市長) と交渉中。家庭奉仕員 (一九六三年創設) は六五歳以上の独居老人の身の回りの世話や家事サービス。一九六五年から市が社会福祉協議会に委託、奉仕員の雇用は一年契約、給料も少なく、退職金制度もあまいで身分不安定のため、六月以来雇用契約、労働条件の改善、夏季・年末・通勤・退職金手当の改善など要求、現在、組合員一三人に減少。家庭奉仕員の組合結成は県内最初 (D)
- 21 県、国際児童年記念行事「えひめ児童会議」開催 (県生活文化センター) 児童五〇名参加。「今日の私たち、二一世紀の私たち」のテーマで児童会議を運営 (E)
- 21~22 松山の元城北高女挺身隊員、「戦争の中の青春を回想し、平和への誓いを新たにしよう」と、松山市在住団体職員久保伸子 (五二歳)、主婦宇都宮周子 (五二歳) らがよびかけ、三四年ぶりに呉海軍工廠を再訪、各地から一五名参加。配属先の吉浦火工部跡、江田島両城奇宿舍等を訪問 (一九四四年、呉海軍工廠に城北高女生徒八〇

月	8
生活、家庭、教育・文化・スポーツ	<p>(C)</p> <p>30 この日付の愛媛新聞、女性で県内最少のアマチュア無線局長浅尾啓子(一一歳、松山市清水小五年)を紹介(C)</p> <p>下 東予市横河地区(河原津など)生活学校(武田百合子運営委員長)開校式(同市福成寺)開催。壬生川、吉井地区に次ぎ市内で三番目、二〇代の主婦中心に四〇余人参加。月一回開催予定(A)</p> <p>下 「上浮穴郡母子家庭研修会」開催(上浮穴郡小田町小田深山集会所母親、子供ら一二〇名参加(B))</p> <p>下 伊予市教委主催「伊予市三世代交流の船」船出、生涯教育、コミュニケーション活動の一環。市連合青年団(西岡敏明団長)二〇名、市連合婦人会(宮内エミ子会長)六五名、老人クラブ連合会(大塚章会長)一六〇名など、二六〇名(団長岡本要市長)参加、船内で三代討論会(テーマ「世代の相互理解を阻むもの」)(B)・(C)</p>
月	8
労働、政治・行政・自治、社会問題、婦人グループ・サークル・団体	<p>(E)</p> <p>22 「えひめ子ども大会」(県主催、県教委後援)開催(県民館)、県内児童福祉施設の児童、「えひめ児童会議」出席児童など、約二、〇〇〇名参加(E)</p> <p>25 松山市、国際児童年記念行事「松山子ども大会」(市子ども会育成者連絡協議会、市教委、市主催、愛媛新聞社など後援)開催(松山市青少年センター)、市内の小中学生約一、〇〇〇名参加。小・中学生の図画などの展示、集団ゲーム、伊予万歳など実施(E)</p> <p>30 西条市連合婦人会(日野豊会長)、市内の環境美化推進、市が実施中の家庭排出ゴミ一〇%減量運動に協力し市内のゴミステーションの実態を視察。この日役員三〇名、バスでゴミステーションと危険物ステーションと併せて六三〇カ所のうち約三〇〇カ所(市内のほぼ全域)を巡回。市と協議し「立て看板やドラム缶設置など対策の申し入れ」を行う予定(E)・(G)</p> <p>31 東予市、「お年寄りと子供たちの対話教室」、「たのも」作り、老人、子供、主婦ら三世代が楽しむ(F)</p> <p>この月 周桑農協営農推進課の生活指導員小笠原花子(四〇歳)・黒河京子(二二歳)・近藤恵美子(二〇歳)、昨年八月から周桑農協婦人部(一五事業所、約四、〇〇〇名)に「地域のコミュニケーション作りは主婦の手で」と大正琴とリボンフラワー作りをよびかけ。月一〜二回教室開講。この月、農家の主婦らリボンフラワー作りに一五名、大正琴に一七〇名参加(G)</p>



あ と が き

早春のころに発行する予定が、もうすぐ初夏の季節になるころみなさまに届けることになりました。

しかし、また一号、ここに足跡を残したことを、うれしく思います。

次号は、今、会員全員が勉強中の「愛媛の女性史」の特集号をだしたいと、編集係では考えています。

(Y)



【む

ぎ】

第二十二号

発行日  
連絡先

女性史サークル

一九八〇年五月二十五日

松山市紅葉町二ノ五  
近代史文庫会館内

電話 四三二四八五六

印刷所

(有)二葉印刷所

松山市本町三丁目二ノ一五  
電話 三一三〇八四

子どもに夢を  
たくましく豊かな創造性を!!



# 松山子ども劇場

松山市三番町5丁目 ☎ 45-0031

婦人問題・女性史研究に必携!!

学習の  
友社

## 婦人問題辞典

定価 2,200円

特価 2,000円(6月末まで)

5月下旬刊行

申し込みは 愛媛書店 ☎ 31-8459

手づくりの洋服をきてみませんか

生徒募集中

# ましおか洋裁教室

松山市御幸2丁目7-8 ☎ 25-5759

## 日本の教育資料シリーズ

資料日本教育実践史

全5巻 刊行/三省堂

造本体裁/A5判・本製箱入り

現金価格 43,500円

内容見本、カタログご請求下さい。  
(お近くのはるぶ各支店又は下記へ)

資料日本現代教育史

全4巻・追補1巻 刊行/三省堂

造本体裁/A5判・本製箱入り

現金価格 32,000円

(株) ほるぶ松山支店

〒790 松山市勝山町2-11 阪本ビル

TEL 0899 (43) 1485

冷暖房 設計・施工・管理  
空調・給湯

## 阪 本 設 備

代表者 阪 本 弘吉郎

〒790 松山市古川町 350 ～ 3  
電話 (0899) 56-6769

LUNCH AND COFFEE

## 糸 ぐ る ま

松山市・上一万 ☎ 45-7817

## 江 戸 茂 薬 局

本 店 (土 橋) ☎ 41-2915  
西 支 店 (南 吉 田) ☎ 72-1304  
味 生 支 店 (北 齊 院) ☎ 52-2385

ナ イ ト シ ョ ッ プ 瀬 戸 内

## 瀬 戸 内 興 産 有 限 会 社

松山市松末町 146 番地 (瀬戸興産ビル) ☎ (0899)32-5230  
八幡浜市産業通 (ヤシロコーポ 1F) ☎ (08942)4-1732  
八幡浜市駅前 (マルマビル 1F) ☎ (08924)4-0618

